

氏名	宇都宮 俊 裕
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第505号
学位授与の日付	昭和47年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	乳酸脱水素酵素アイソザイム(LDH isozyme)に関する実験的研究 第1編 加齢及び種々の処置を加えたラット胃粘膜についての検討 第2編 Rauscherマウス白血病の血清、白血病細胞及び組織についての検討
論文審査委員	教授 小坂 淳 夫 教授 水原 舜 爾 教授 大藤 真

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

第1編 Wistar rat を用いて加齢による胃粘膜LDH isozymeの変動を測定した。小彎側は糖代謝上嫌气的条件に適応してM型LDHが大部分を占め、加齢による変動もみられないが、大彎側では新生児期におけるM型LDH優位のisozyme patternは加齢によって漸次M型LDHの減少と、好气的条件に適応したH型LDHの増加することが認められた。これは小彎側粘膜は糖代謝の面から癌組織に類似することを示し、胃癌発生が小彎側に多いという臨床統計の成績とよく一致する。

第2編 Rauscher 白血病について、ウイルス接種後経日的に血清及び組織のLDH活性及びisozymeを測定し、RauscherウイルスのleukemogenesisとLDHの関係について検索を行った。血清LDHはウイルス接種後、末梢血中有核細胞数及び脾重量と正の相関を示しつつ経日的に増加して、白血病の進展過程を反映した変動を示すことが認められ、その由来は白血病細胞からの血中への酵素逸脱が主体をなすと考えられる。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、加齢および種々の処置を加えたラット胃粘膜、ならびにRauschey マウス白血病の血清、白血病細胞および組織について、乳酸脱水素酵素アイソザイムの特異的消長を明らかにした論文であって、新知見に富み学位論文に値する価値あるものである。

よって、本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。